

お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわがっちゃらブックレット

OSANPO

～8歩目～





■豊シニアエイジクラブ…6p



■NPO『みるみえる』…4p



■36project協議会…10p



■N・P・Oのひとびと 第4回
「福井県子どもNPOセンターのひとびと」…8p
写真提供：認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター

What is Volunteer?

■コラム「『ボランティア』って？」…12p



■編集後記座談会…18p



■Save Japan プロジェクト福井の8年…14p



■チラシ&ポスターで振り返る
今年度のさばえNPOサポート…16p

目次

団体紹介①「NPO『みるみえる』」	4p-5p
団体紹介②「豊シニアエイジクラブ」	6p-7p
特集「N・P・Oのひとびと」第4回 「認定NPO法人 福井県子どもNPOセンターのひとびと」	8p-9p
団体紹介③「36project協議会」	10p-11p
コラム「『ボランティア』って？」	12p-13p
巻末特集①「Save Japan プロジェクト 福井の8年」	14p-15p
巻末特集②「チラシ&ポスターで振り返る 今年度のさばえNPOサポート」	16p-17p
編集後記座談会	18p-19p

『OSANPO』について

■ふらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。

■タイトルに隠れた「NPO」(非営利で活動する組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…



「眼育」マイク

フューチャーチャージャー

“Make” the Future!



▶2019年10月6日(日)開催された「さばえ食と健康福祉フェア」でのビジョンヨガ風景



▲アイアイ鯖江での「目の健康体操」写真提供：NPO『みるみえる』

NPO『みるみえる』

- まちづくり
- 環境
- 教育
- 福祉
- 文化

みること、みえること、それは非常に大切なこと。『NPOみるみえる』は、そんな人間の「目」、とりわけ「視力」に関する様々なことを、日本のメガネフレームの一大生産地鯖江から発信する活動をしています。

『3歳児検診で機器による視力検査なし』…なんで？

発足へのきっかけは、視力に関わる、ある事実を知ったことからでした。「1700以上ある市町村の中で、当時3歳児検診の時に、専用機器による視力検査を行っている自治体は、たった10あまりだったんですね。正直、なんで!?…って思いました。」代表の加藤裕之さんは、鯖江市内の大手眼鏡メーカーに勤務。視力に関する知識などにも触れる機会が多く、「6歳までに弱視等の病気が発見できれば、治せる可能性が十分にある」とを知っていました。



▲代表の加藤さん

逆に、それまでにピントの合った鮮明な像を認識できていないと、視力機能の発達がそこで完了してしまい、集中力や学習能力、スポーツといった

様々なことがらに、一生影響を及ぼす可能性が高いそうです。これは変だ！と、かく子どもたちに正確な検査を受けさせてあげたい!! 『みるみえる』が子どもの目の健康増進を目標とする『眼育(めいく)』という言葉を使っている理由は、まさにここにあります。その他にも、パソコンやスマートフォン普及で増加し続ける「急性内斜視」や、高齢者の視力低下からくる「交通事故」など、健康・教育・文化・福祉等々の社会的課題と解決への道筋を、『見ること』の視点から発信。「メガネフレーム生産の『聖地』鯖江だからこそ、産業も含めた大きな視点で活動することが、ぼくたちの使命だと思っています!」

『活動もスタッフもバラエティー豊か』

現在、『みるみえる』の活動内容は大きく4つの柱に分かれています。

- ① 弱視の早期発見、早期治療の啓蒙活動
- ② 読み書きや球技の苦手なお子さんの見え方の周知活動

- ③ 目の健康体操、スポーツビジョン、ビジョンヨガ
- ④ 高齢者の方々に目の使い方の実技指導

イベントや施設などに呼ばれて活躍するのは、様々な経歴・年代・職業のメンバーたち。



企画担当者の他に、フィットネスインストラクター、看護師、

認定眼鏡士、経理経験者など、人生経験豊富なボランティアスタッフの皆さんが結集、安心と信用を大切にしながら講座やイベントを実施しています。目と健康に関わる体操を考案した2人の副代表をはじめ、ロゴマークをデザインした企画長の西さんなど、各々が個性と才能を持ち寄って会の活動を盛り立てている姿は、まさに市民活動の理想型。多様な人達に関わるこの大切さを教えてください。

その豊かさこそが、お互いを尊重し合う「チームワーク感」につながっていることは、取材中の会話からもしっかりと伝わってきました。

『目と姿勢の健康体操』の考案者 高橋副代表



▲『目の健康体操』の考案者 柳沢副代表



『未来のために…』

『みるみえる』でも活動費の捻出は重要な課題です。今のところメンバーの持ち寄り心ある皆さんからの寄付、そして、出張指導の謝礼から一部を納めてもらうことで運営しています。

これまでいろいろな活動もしています

- ◆お子さんの見え方相談窓口開設 (2015)
- ◆鯖江市健康づくり課製作「目の健康体操」DVD収録 (2017)
- ◆夢みらい館・さばえ主催「子どもの健康『目の体操』」実施 (2018)
- ◆福井国体テモスポーツの準備体操で「目の健康体操」披露 (2018)
- ◆県内の各小中学校で「目と姿勢の健康講座」実施 (2019) …など

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内

<https://ameblo.jp/mirumieru/>
h.kato1666@gmail.com

NPO『みるみえる』 検索

●代表者…加藤 裕之
●活動開始…2014年7月6日
●正会員数…24名(2020年3月現在)
●賛助会員…なし

◎活動目的
子どもから高齢者まで、目の健康や、『見ること』に関わる様々な知識や活動を、鯖江から発信し実践するNPOです。

野菜、惣菜、

多種多彩!!

▼下野田町にあるサルビア会館
向かって右側が直売所、左側がサルビアキッチン



▶棚にびっしりと並んだ
旬の地場産作物



▶フタの開まらない
天ぷらのパック

ゆたか 豊シニアエイジクラブ

まちづくり 環境 教育 福祉 文化

『サルビア会館』の名前で親しまれている豊地区の農産物直売所を皆さんご存知でしょうか。

『豊シニアエイジクラブ』が運営するこのお店は、野菜の収穫時期に合わせて、毎年4月下旬〜12月上旬の水・土曜日にオープン。朝9時の開店前には、毎回行列ができる人気スポットです。

「勝負は、開店直後の15分間なんですよ。」

テキパキと料理の手を動かしながら笑顔で教えてくれたのは、直売所に隣接する『サルビアキッチン』で調理中の女性メンバーの皆さん。

コンパクトながらフライヤーや調理台などが機能的に並ぶ部屋の中には、開店前のちょっとした緊張感と、気の置けない仲間同士の楽しげな会話が満ちています。



▲人気の手作りコロッケを役割分担して下さり

慣れた手つきで次々と出来上がっていく惣菜たち。

それが、どう見ても「サービシ過ぎ」な量でパックに詰められていく様子だけで、最初のセリフの意味がわかります。

朝いちに出来た行列のお客様で、9時15分には、たくさん野菜や料理が棚から消えてしまうのも納得です。

『豊地区の豊かな野菜』

野菜の直売所が始まったのが、2005年5月のこと。もちろん販売される作物は、全て豊地区産。

各家庭の畑で作られている野菜の中から、たくさん採れたものを持ち寄っているため、新鮮でお買い得なのはもちろん、減農薬で安心安全。

今が旬の物だけが並ぶ店内は、まるで『季節の恵みのショーウィンドー』といったおもむきです。

野菜を運んでくる人、買い物に来る人、販売する人：色々な人が顔を合わせて賑やかさが増す中、「今日はお寿司は売っていないの？」なんて常連さんの質問の他にも、野菜の栽培方法を

アドバイスし合ったり、我が家のお勧めレシピを話したりと、生活に密着した情報交換がこちらで大発生。間違いなく、ここは地域コミュニティの一端を担っている、とっても大切な場所なのです。

『キッチン始動!』

地元産野菜を、もっと多くの人に食べてほしいと『サルビアキッチン』を増設し、コロッケや天ぷらなどのお惣菜販売を始めたのは、直売所開始から10年経った2015年。

その評判は、口コミで、あっという間に広がりました。

その日集まった新鮮野菜から作られる栄養満点のお料理。おまけに、トレイから溢れるほど詰め込まれた天ぷらをはじめ、そのお得意もハンパなし! 今では、注文に応じたお弁当も引き受けて、地区や市内のイベントなどにも提供しています。

『商売っ気はそっちのけ?』

「儲けようって気がないのかも。結局、美味しかったよ、ありがとって言葉が何よりのご褒美だから。」
そんなことを口にする皆さんの表情からも、本心からの心地よい潔さを感じます。…とは言え、ただそれだけではないはず。お話を聞き進めると、や

はり、会を継続していくための最低限の計画などは、みんなできっちり話し合うようにしているとのこと。

「あと、食べてもらった皆さんからの感想はとても大切にしている、そこから次に向けた改善点とかも、とことん話し合いますよ。」
その姿勢は、お料理の工夫にも現れています。

お弁当を作る時には、食べる人の年齢層やニーズに合わせて、具材を小さく切ったり、塩分控えめにしたりと、味はもちろん、健康・見た目・食感にも気を配った献立を考えるそうです。
まるでオーダーメイドの服をあつらえる様な心遣いと責任感。

それは、その道のプロフェッショナルが持つ『特別な何か』というより、家族や仲間や地域に対する『思いやり』に裏打ちされた、もっと素朴で、自然体の輝きのように感じられました。

『10年後につながる おいしい野菜作りを』

1年に1回、旅行に出かけるほど仲が良いメンバーの皆さん。調理も会話も、阿吽の呼吸で進んでいきます。
でも、ただの「仲良しクラブ」ではない目標を話してくれました。
「10年後も見据えて、若い世代の仲間を増やし、豊地区の野菜作りや食文化の継承もしていきたいなってね。」
優しくて、それでいて、どこか頼り

▼直売所では、季節のお花も彩り豊かに販売しています☆



〒916-0073 鯖江市下野田町25-12-1
サルビア会館内

■野菜の直売
4月下旬～12月上旬の水・土曜日
9:00～12:00
※お花・お惣菜の販売もあります



正会員募集中!

- 代表者…笹本 鉄美
- 活動開始…2005年5月
- 正会員数…38名(2020年3月現在)
- 賛助会員…12名

◎活動目的

地場産野菜の素晴らしさをアピール。旬の作物や、それを使った惣菜・弁当も提供。地域の交流を大切に活動中です。

これまで
こんな活動も
いろいろあり

- ◆豊小学校6年生を対象にした「ゆたかっこチャレンジ・座・ふるさと」への伝承料理提供
- ◆「ふるさと鯖江の日」に開催される「ふるさと鯖江の料理を楽しむ会」に、料理を提供
- ◆「サバ又シ総会2019」懇親会への料理提供…など



理事長の谷内由美子さん

NPOに関わる『人』にフォーカスするこのコーナー。4回目は、子どもたちの成長支援や権利の擁護などをミッションとする認定NPO法人『福井県子どもNPOセンター』の理事長、谷内由美子(たにうち ゆみこ)さんです。子どもたちの心の居場所『チャイルドライン』に関わりながら、自分自身も成長してきたという道には、わが子と向き合う中で追い詰められ、悩み抜いた経験があったそうです。

『チャイルドライン』

「福井県子どもNPOセンター」と言えば、県内でも老舗の認定NPO法人ですが、今は谷内さんが理事長のお立場なんですね。谷内 そうなんです。私みたいなヒトで大丈夫？って、今も思いますけど…(笑)

うちの団体は、子どもたちの未来のために、ふくいチャイルドライン、表現ひろば、子どもフェスティバル、大人が学び合う講座など、たくさんの方々の事業を行っています。他の理事さんたちも、事務局の方も、ボランティアの皆さんも、本当に暖かく支えてくださるので、どうにかこうにか。はい。去年までは室長として『チャイルドライン』を担当していました。

子どもたち向けの相談電話的な？谷内 そういうイメージの方も多いいんです。18歳までの子どもなら、どんなことを話してもOKなフリーダイヤルなんです。

『音』が大事

「今の時代、『電話』ってツールなのも、ちょっと古風に感じますが…」谷内 チャイルドラインは全国で68団体が実施していて、インターネットのチャットで会話する団体もあります。それぞれメリットはあるのですが、福井では子どもたちが直接伝えてくれる『音』を大事にしたいので、電話だけで

N・P・Oのひとびと —第4回—

▼売り上げの一部が「ふくいチャイルドライン」に寄付される『あそべる おつきな ハンカチ』(1000円)



認定特定非営利活動法人
福井県子どもNPOセンター

〒918-8106 福井市木田町36-1
コーポ木田201

TEL:0776-97-8460
FAX:0776-97-8461

http://childnpo.com/
childnpo@muse.ocn.ne.jp

やっています。

『音』：つまり『声』なら、トーンやスピードで感情やニュアンスを読み取れますが、文字からだと難しい。

『話す』って、とっても基本的な『自己表現』ですよ。それが上手い子どももそうでない子どももいますけど、声には『言葉』以外のたくさん情報がかたまっています。

特に、家や学校で「自分の話が伝わらない。受け止めてもらえない。」と思う子どもたちにとっては、自分の声で話したことを「わかってもらえた」と感じるのが、とっても大切なんだと思うんです。

「いわゆる、自己肯定感？」

谷内 そう、それです。子どもが自分の表現を受け止めてもらえる場所が『居場所』だと思っています。私たちはそれを子どもの心が安らぐ場、家庭でも学校でもない『第3の居場所』と捉えています。

「なるほど。…それ、大人でも同じかもしれないですね。今のお話で『チャイルドライン』の役割がわかってきた気がします。」

『枠』

「—ところで、そもそも『チャイルドライン』との出会いは？」

谷内 ボランティアを始めたのは2007年です。きっかけは、ある講演会で、初代理事

長の岸田さんのお話を聞いた時に、とにかく感動して「やりたい！」って感じました。ただ…今思うと…私、逃げて一息つきたかったのかも…

「え…逃げて？」

谷内 自分の子どもに障がいがあったら、ずっと真剣に向き合っていたんです。将来のために、少しでもしっかりと育てて欲しい。そのためにはどうしたらいいんだろうって…

毎日毎日、気がついたことを伝えて「こうしたらいいんだよ」って一所懸命おぼえてもらおうと頑張ってた。例えば、部屋を全然片付けないんです。寝る場所もなくなっているのを、いくら注意しても直そうとしない。

もう、どうしようもないくらい努力して…でも結局行き詰まって、ある人に相談したんです。そうしたら、こう言われました。

「片付けなきゃいけないのはお母さんの『思い』でしょ。子どもは、散らかってる部屋でも寝られると思ってるんじゃないの？」

「えっ!?!…」

あ、そうなんだ!って…私、子どもを『私の枠』にはめ込もうとしてただけなんだって。その日を機会に、世界が180度変わったみたいでした。

この子はこの子。私の一部じゃなく、この子の価値観があるんだよね。

この子は私の言っていることを理解できてないんじゃないかって、思っていることがそもそも違うってことなんだった。その時ストーンと心に落とすことが出来ました。人はそれぞれ違うものなんだったこと。

「なんだかスゴい経験ですよ。」

谷内 私の最大の転機って言えばそうだったかもしれないです。(笑)

ちやうど、そんなタイミングに『チャイルドライン』との出会いがあって、自分の子どものことは専門家に任せることにしました。で、代わりに私は、他の子どもたちの相手をさせてもらおうと。それまでの追い詰められてた人生からの『逃げ場』だったのかなあと。

「いや、それは『逃げ』と言うより、親と子どもがそれぞれに解放されたのかも知れませんか。」

『発信と共有』

「最後に、今後のことについて何か。谷内 チャイルドラインに入ったときは自分が何か役に立てればと思ってました。今、理事長の立場になって思うのは「見えている課題を社会に発信しなければならぬ」ってことです。

そして、私が経験した様なことも含めて世の中の皆さんと共有することも大切だと思います。同じ経験をしている人が絶対にいると思うし、早く気付くことで子どものた

めにもなると思うので。今回は、私の話を中心だったので『チャイルドライン』ばかりになってしまいましたが、『福井県子どもNPOセンター』は、子どもが生きやすい社会を目指して様々な事業を展開しています。子どもと笑える方ならどんなでも参加できますよ。また子どもNPOセンターはミッションに賛同する皆様の寄附で支えられています。関心のある方はホームページをご覧ください。またお気軽に事務所にお問合せください。どうぞよろしくお願いたします。



谷内さんは、価値観や視点と共に、子どもには子どもの『ペース』があり、子どもならではの『時間』の流れを尊重する大切さも語っていました。今の効率至上主義の世界は、子どもたちに託す未来としてどうなのか？大人は、もっと素直に『子どもから学ぶ』ことを意識しても良いのかもしれないですね。

認定特定非営利活動法人
福井県子どもNPOセンター
『チャイルドライン』の情報は…

▼公式サイトへ

ふくいチャイルドライン
毎日16:00~21:00
0120-99-7777



循環と

持続の

神明へ

さんろくプロジェクトきょうぎかい
36project協議会

まちづくり 環境 教育 文化 その他

銀行・鉄道会社・不動産会社・眼鏡会社・商工会議所…そんな組織に関わるメンバーたちが、本気で『まちづくり』を仕掛けるグループ、それが『36project協議会』。
行政主導型とは明らかに性格の違う「何か」が、鯖江市神明地区で動き始めたようです。

『経済面の紹介記事』

2019年6月22日付け福井新聞の大きな記事で、初めてその存在を現した『36project協議会』。
地域面ではなく、経済面に掲載されたことが、この団体の性格を映しているのがわかります。

今回の取材で対応してくださったのは、事務局を務める高村俊輝さんと、『福井銀行神明支店』で地域の企画や事業に携わる、永田さん、朝日さん、中野さんの計4人の方々。

高村さんは「白い雲不動産」の社長の顔を持ち、発起人で協議会代表の小松原一人さんは眼鏡のデザイン企画販売を手がける『ポストンクラブ』の社長という立場。福井鉄道や鯖江商工会議所も関わるこのプロジェクト、当然その核にある大切なキーワードのひとつは『経済』です。

『人十生活・経済?』

『経済』と聞いて『お金もうけ』と受け取る人も多いかもしれませんが、もちろん間違いではありませんが、

その中には協議会がサポートした事例もあり、また、そんなお店が頑張ることで、まち全体が魅力的に成長しながら、新しいお店の誕生やお客さんをおいざなう『循環』になっていく…
誰かが強いリーダーシップを押しつけるのではなく、個々が活性化して地域に根付き、良い影響力を及ぼし合う。そんな流れこそが、『循環する小さな経済圏』に向けた理想的な道筋なのかもしれません。

『デザインと個性が光る魅力的なまちへ』

取材中、まちづくり企画での『こだわり』を質問した時、特に印象に残った答えが2つありました。
・自分たちが表に出すぎない
・デザインにこだわらる

確かに一歩引くことで、まちづくりに関わりたいと思う人の主体性や個性を潰さないよう尊重できます。
そして『デザイン』にこだわることは、まちに住む人や訪れた人たちの感じる『魅力』に直結します。

そこからは、心底から「住みたい」「来たい」「お店を出したい」と思えるまちに育てるためには、関わるひとりひとりの『主体性』『個性』『魅力』が絶対条件だという、メンバーの皆さんの確信が伝わってきました。

本来『経済』は『生活』とかなり近い言葉で、通貨がなかった時代には、物々交換や狩猟・農業なども『経済』の大切な役割を担っていました。
人々の『生活』があるところには、必ず『経済』があり、『経済』が回るところに人々が集まることで『まち』が出来る。
だったら、まちづくりを考える中心に『経済』があることが、むしろ当たり前なのかもしれません。

『地域の資源を知る』

会の名前にある『36』は、神明地区の『三六町』のことでもあります。この地域を駐屯地とした『歩兵第三十六聯隊』に象徴される歴史につながる数字でもあります。
まちづくりには、まず、自分たちのまちを『知ること』が大切とのこと。

歴史でも人材でも産業でも、まず何を持っているかを知ること、初めてそれをどう未来に活かしていくかを考えられるというわけです。

7月に開催したキックオフイベントでも、地区にある国指定の有形文化財『幸道家住宅主屋』を訪れ、その歴史

今後、神明地区の『個性』や『デザイン』を形にする企画として、公園の遊具をメガネをイメージしたものに刷新したり、駅名や公園の名前をメガネにちなむ呼び名に改称するための提案を行っていく予定もあるとか。
新規オープンするお店も含め、これからの神明が楽しみすぎ☆

5年、10年、そして100年後の姿を想像しつつ、今後の『36project協議会』の動きに大注目です！

と建築を、地域のために有効活用するためのワークショップを行いました。
50名近くの参加者は、身近に存在する古民家の雰囲気を肌で感じながら、活発にアイデアの発表や意見交換を楽しんだそうです。



▲幸道家住宅主屋



▲▶2020年7月13日(土)のキックオフイベント
写真提供: 36project協議会(3枚とも)

このイベントには、ある意味、協議会の関わるプロジェクトの『入口』的な役割もあり、様々な地域資源を確かめながら進むその先には、より具体的な『まちの姿』も見えてきます。

『持続と循環』
幸道家でのイベントの際、資料の中で使われた、あるキャッチフレーズがあります。

「持続可能な 稼げる まちづくり」

この「持続可能に「おや!」」と思っただけさん、さすがです!

このフレーズは、今、様々な場面で目にするものの多くなった、国連が提唱する世界的なムーブメント、『SDGs』(エスディーゼイズ) 持続可能な開発目標」と強い関連を持つ言葉なのです。
ザックリ説明すると、『SDGs』とは、環境・経済・命・人権などの多角的な課題を世界全体で意識し、絶妙なバランスを維持しながらも速やかに達成するための目標群のこと。

ただ、『36project協議会』の描く将来像の特徴は、その目標達成の方法を、行政や大企業の動きに任せるのではなく、民間主導で創り上げる『循環する小さな経済圏』に落とし込んだところでしょう。

それを実現する方法のひとつとして、協議会では空き店舗などを活用した起業支援も行っていきます。

ここ数年、スイーツやコーヒーなどのおしゃれなお店が増えてきた神明駅エリア。

〒916-0021 鯖江市三六町1-4-31-2
BOSTON CLUB BLDG 内

https://www.facebook.com/36projects/
info@aoisorashiroiikumo.com

- 代表者…小松原 一身
- 活動開始…2019年6月22日
- 正会員数…なし
- 賛助会員…なし

◎活動目的
鯖江市神明地区を中心に、まちづくり企画・運営・サポート・情報発信などを行っています。

コラム

「ボランティア」って？

～ボランティアで得をする??～

認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
理事長 八田 登師男



■そもそも『ボランティア』ってどんなこと？

読者の皆さんが「ボランティア」と言う言葉から最初に連想するのは、『無償性』ではないかと思えます。「無償のボランティアでなんで得するんだ」と思われるでしょう。その辺のことについて、おいおいと述べていきたいと思います。

よく「ボランティア」と言うには、①無償性、②自発性、③公益性の3つの要件を満たさなければなりません」と言われています。
(四つ目の要件として『先進性』を挙げる時もあります)

この中で①の『無償性』については、いろいろな見解(解釈)があることは、前号で記したとおりです。

「ボランティア」と言うからには、飲食はもとより(現場までの)交通費も自腹であるべきだ」という方もおられますし、「交通費や従事時間によって、食事(代)ぐらいいはもらってもOKだろう」という方、「交通費や従事時間によっての食事はもちろん、若干の対価をもらったとしても市場価格や最低賃金と比べてとても低い場合はボランティア」という考え方で非常に幅広い幅があります。

その幅があることから『無償ボランティア』『有償ボランティア』と表現を分けたりしますが、そのボーダーは明確でないのが実情です。

また(蛇足ですが)、『有償ボランティア』と言うとその幅が非常に広いことから、『有償ボランティア』と言う言葉のもとに、雇用主が不当に安い賃金で労働をさせたり、ボランティアサイドが安い賃金で働くことで、正規雇用の機会を奪ったりと、いろいろな問題があるのも事実です。



ここで、その行為がボランティアであるのか否かを判断する材料が『自発性』と『公益性』です。

■楽しくなければ『ボランティア』じゃない

ボランティアにも、一般的にハードなイメージの災害復旧ボランティアか

ら、もっと身近なイメージのイベント等の運営支援ボランティアまで(決してどちらが上とか下とかではありませんが)あり、それに対して「楽しくなければ」と言うのは時に不謹慎かも知れませんが、『楽しみ』または『喜び』を感じなければ、人は来ないし、続ける人もいないと思います。

ここまで何のかんのと書きましたが、サブタイトルの「ボランティアで得をする」と言うことが指しているのは、無償性の解釈による金銭の受領を指している訳ではありません。

ボランティアは何のため(誰のため)にするのか? ↓もちろん、困っている(課題を抱えている)人々を助けるために行うものです。
では、その行為によって助けられるのは、その行為を受けた人たちだけなのでしょうか?

私が初めて(人に誘われて)福祉施設を訪問し、おじいちゃんやおばあちゃんとお交流した時に、確かにおじいちゃん・おばあちゃん、そして施設の人たちは喜んでくださいました。

その方たちが喜んでくださったのは確かにうれしかったのですが、「そうなんだ、自分のたったこれだけのことで、こんなに喜んでもらえるんだ。自分にも人に喜んでもらえるようなことができるんだ。」

と言う自己肯定感があったことに、とても驚きました。

このような自己肯定感が自分への自信になり、自分自身の(自分なりの)人生での成功感につながって行きます。そして自己を承認することで、他人(他の個性)を承認することができま

す。(ここでの『自己承認』は『自己満足』とは違いますのでご注意ください。)

そうなる、それまでとは考え方が肯定的になり、世の中や人に対しての見方・見え方が変わり、行動も少しずつですが変わってきます。
(ただ『肯定的な見方』が良いと言っている訳ではありません。『否定的な見方』も必要で、要は多角的に見る必要がある、ということです。)

禅問答のようなですが、幸福感は人によって違います。



大金持ちと貧乏な人と、どちらが幸せか?...と言うと「一概に言えない」と言う答えが返ってくるのがその証左です。

■まとめ

ここまでで、何が言いたかったかと言うと、「情けは人の為ならず」と言うことです。

ボランティアとは意味合いがちょっと違います、それはつまり「人に情けをかける(困っている人を手助けする)ことは、その人のためにもなりつつ、回りまわって自分に返ってくる」と言うこと。

その『返ってきたもの』が『得』と言うことです。

コラムのコラム column in column

- ◆人は一人で生きては行けませんよね
どんなに「人とかかわるのがキライだ」と言っても、どこか人里離れたところで全くの自給自足の生活を送る、と言うのなら別ですが、そうでなければ何らかの形で他の人との接触が、生きて行く上で必要になります
- ◆他人の自身に対する行為について「ウザッ」と思う時もあるかと思えます
- ◆やる人にとっては「善意」なのですが、受ける人にとっては「余計なお世話」と言う時もあります
- ◆「ボランティア」も同様に、相手と適度な距離感を保ち、相手が手助けを必要としているのか? 必要ならばいつでも手を差し伸べられるよ、と言うような寄り添う気持ちが第一なのではないでしょうか



2015 コウノトリの棲む里で
生きものたちのピラミッドを知る

実施団体：水辺と生き物を守る農家と市民の会

- 【6/13(土)】日本一小さなトンボ
ハッチョウトンボに会いにいこう!
- 【7/4(土)】しあわせのコナギハンカチ染め体験!
- 【8/8(土)】カエルのお城が危機一髪!
ザリガニ捕獲大作戦☆



ハッチョウトンボは
1円玉に隠れるほどの
極小サイズ!

田んぼの雑草を使った
草木染めは、お母さん
にも大好評☆

2014 かわだ里山たんけん王国

実施団体：河和田自然に親しむ会

- 【6/15(日)】オシドリを探そう!!
- 【8/24(日)】鳥たちの巣箱を作ってみよう!!
- 【11/9(日)】鳥たちの巣箱をかけてあげよう!!



観察会ではアオバズクも発見!
巣箱づくりや設置体験も

2018 自然体験
「あすわ川・水と命の道」

実施団体：一般社団法人 環境文化研究所

- 【7/16(月)】源流に、会いにいこう
- 【9/24(月)】川がまちと出会う場所
- 【10/14(日)】川の生まれる山へ



まちなかでのボート下りや源流への
峠越えなど、足羽川の物語を満喫!

2017 日野川を舞台に身につける
「センス・オブ・ワンダー」

実施団体：一般社団法人 環境文化研究所

- 【4/23(日)】～トリの目、ムシの目、サカナの目～
日野川の生きものの気持ちになって観察しよう☆
- 【5/28(日)】～トリの目、ムシの目、けもの目～
生き物たちの家である森を訪れよう☆
- 【7/23(日)】～トリの目、ムシの目、自分の目～
生き物や植物の変化を感じるセンサーをみがこう☆



川流れや生きもの観察会、
山で感覚を研ぎ澄ませる
冒険歩きなど、自然を感
じるセンサーを養成☆

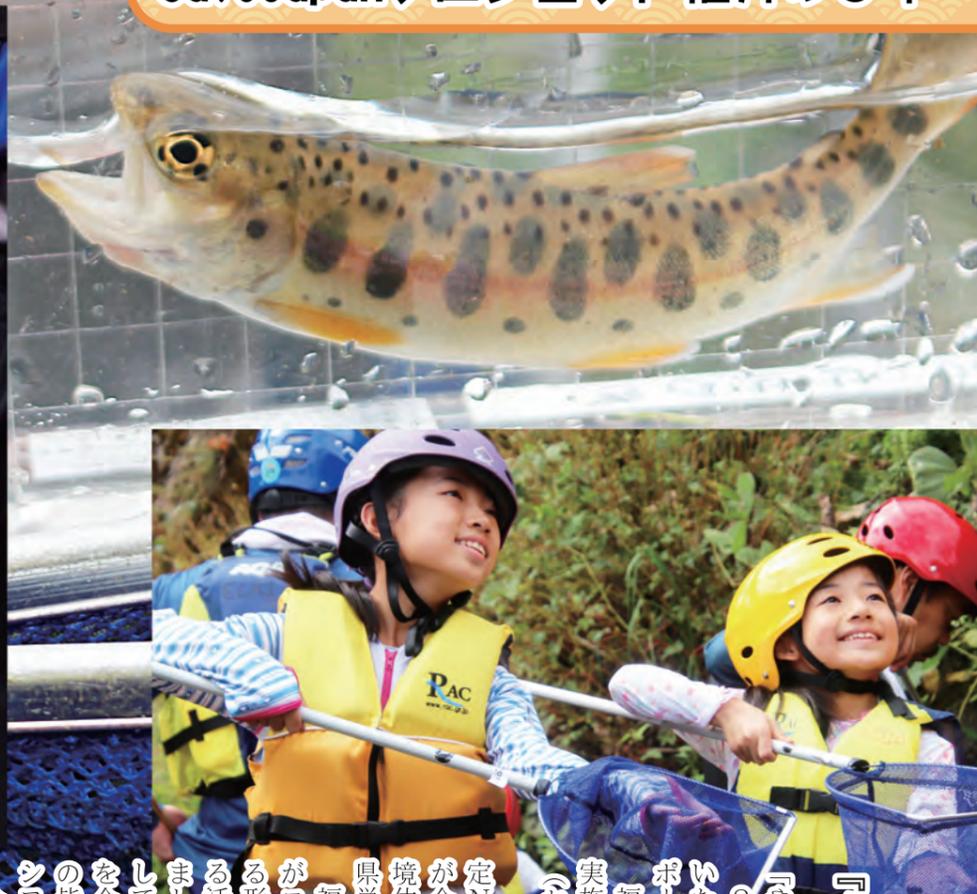
2019 2019夏・
ぼくらの自然再生プチ作戦

実施団体：一般社団法人 環境文化研究所

- 【7/21(日)】サカナのきもちで川たんけん
- 【8/18(日)】つくろぞ!!アカタン手づくり魚道
- 【9/29(日)】アカタン大調査団



子どもたちの「手づくり魚道」の
出来ばえに、大人もビックリ!



『全国POCの中心』
「やったーっ!! 採択されたって!!!」
2019年10月29日の午後、届いた一通のメールに、さばえNPOサポーターの事務局は沸き立ちました。福井県でも、2012年から8年間実施してきた『Save Japan (セーブジャパン) プロジェクト』。『損保ジャパン』が資金提供し、認定NPO法人『日本NPOセンター』が全国事務局を務めるこの事業は、環境体験学習を軸として、全国の都道府県単位で広く実施されています。福井県では、さばえNPOサポーターがコーディネートや広報サポートをする形で、希少生物保護などを目的とする活動団体とタッグを組み開催していましたが、新年度からは『挑戦期』として新しい段階に進むため、開催地域を全国から8つに絞り、より一般市民の皆さんの意識向上に貢献する内容にシフト。
今回のお知らせは、我々が『(一社)環境文化研究所』と一緒に企画して応募した事業計画が、その8つの中に選ばれたという嬉しい内容だったので、新年度からの挑戦を前に、この8年の活動の記録を、誌面で振り返ります。
※事業の仕組みに一部変更があった2016年は、福井での活動がなかったため、7回分となります。

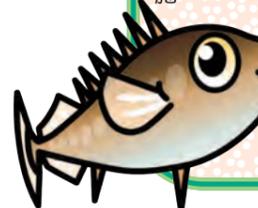
2013 トミヨと梅花藻。
治左川の奇跡を未来へつなごう!

実施団体：治左川とトミヨを守る会・日野川流域交流会

- 【7/28(日)】梅花藻の咲く治左川を、五感で楽しもう!
- 【9/1(日)】トミヨがすむ湧水の里めぐり
- 【10/27(日)】治左川の湧水を守ろう



湧き水の里を
徒歩で巡ったり、
水を生む山への
バスツアーも実施



2012 アベサンショウウオを守ろう!
人も生きものも元気な里づくり

実施団体：水辺と生き物を守る農家と市民の会

- 【9/1(日)】アベちゃんを守れ! ザリガニ捕獲大作戦☆
- 【9/23(日)】ハッチョウトンボ応援団!
～日本一小さなトンボを守れ☆～
- 【10/14(日)】ミジンコからコウノトリまで、
生きものパラダイスを作ろう!



休耕田での
ビオトープ作りも体験

ザリガニ釣りには100人
以上が参加!

この8年間は、さばえNPOサポーターのスタッフたちにとっても、身近にこんな豊かな自然があり、希少生物やそれを支える活動をしている人たちがこんなにもたくさんいることに、気づき、感動する日々でした。
まちづくり同様、一人一人が地域の一部であるという視点を広げれば、人は自然の一部であり、地球の小さな小さな構成員のひとつなんだと体感できるプロジェクト：それが、『Save Japan プロジェクト』です。
毎回人気で、定員オーバーになってしまふことも度々ですが、機会があれば、あなたもぜひご参加ください。



今年の編集後記座談会は、
団体さんの取材まわりが一段落した12月中旬に
鯖江市某所にて開催されました。
師走独特の華やかさと、少し浮き足立った雰囲気の中
楽しく饒舌な時間があつという間に満ちてゆきます。
さあ、それでは今年の『OSANPO』と、
我々、さばえNPOサポートの話を始めましょうか！

☆ルーキー優秀伝説？

- A 本日は、令和最初の『OSANPO』編集後記座談会にお集まりいただきありがとうございます。
- B 今年が始まったときはまだ平成でしたもののね。
- A 早速ですが：
- C なんとなく、今年は、取材が早めに完了した印象なんだけど。
- D 掲載団体さんとかの決定が、割とスムーズだったからかも。
- C まあ、それと『原稿が出来てる』ってのとは完全に別の話ですけどもねえ。(笑)
- D 今、初稿あげてる人どれくらい？
- C 半分以下です☆
- D ちなみに、自分も真っ白です！
- C はい、私も右に同じ！！
- D でも、実は最初に原稿届けてくれたのは、今年、広報初参加のEさんでしたよ。
- E 一同 おーっ☆
- D いや、だって、取材してあんまり時間経つと、忘れちゃうって言うか、ほら「鉄は熱いうちに打て」って言うか？
- B その通り！
- D でも、それが出来れば苦労はないっちゃんか。(笑)
- B 初参加って言えば、やっぱり今年から加わってくれた、JK課卒業生のFちゃん。

- C 今日、ホントに残念ながら欠席ですけども：若手のホープ！
- A そうそう。取材担当決める委員会の時に、自分から『36project協議会』さんの取材に同席したいって言うてくれて。

- C なぜって聞いたら「こういう感じの活動してる団体さん、聞いたことないから興味があるんです」って普通に言うんだもん：
- D いやあ、その姿勢がスゴいよねえ。教えられました。
- C 我々、知らないうちに『守り』に入っちゃってるんじゃないかって、新しい視点を持つてる人材って、大切ですね☆

☆3大ニュース

- A それでは、広報に限らず、うちの団体としてのこの1年を、考えてみましょうか。
- C 令和元年を総括してさばえNPOサポートの『10大ニュース』ってなんでしょね？
- C え！? 10は多すぎでしょ。
- A ページに入り切らんです。(汗)
- D では、3大ニュースで！
- E 対応、ハヤっ！(笑)
- D ……そうだねえ：
- A 第3位で、個人的に思ってるのは『さばえNPOサポート公式LINEスタンプ』発売かな。
- G 今、売上はどんなもんでしょ？(笑) 『さばえNPO』のキャラクター

- たち同様、かわいいもんです。そもそも「買の方がよく分からない」って人も多くて：
- B でも、かわいいスタンプだから、ぜひ使ってほしいですね。
- G 『LINEスタンププレミアム』って言うサブスク(使い放題)のサービスに入っても使えるはずですよ。
- A では第2位！
- C 『Save Japanプロジェクト2020』の実施団体選ばれたのは、やっぱりメチャ嬉しかったですよ☆
- G 詳しいことは、記事(14・15ページ)を読んでもらうとして：ちょっと説明を入れようと、損保ジャパンさんがスポンサーで、日本NPOセンターさんが全国事務局をしている『環境体験学習』のプロジェクトにおいて、私たちが提案した企画が、全国で8つ採択される中に選ばれたんです☆
- B すごーい！ パチパチパチパチ！ 予算規模も、ここ数年と比べて大きくなるんで、事業を新たなステージに進化させる『ワクワク感』も半端ない！
- C ズバリ要チェックでしょう！

- A あ：それ、言っちゃいましたか。え？ 触れちゃまずかったですか。(汗)
- B でも、人に例えると成人ですね。さばえNPOサポート、めでたく大人になる！！
- E 祝！ 『さばえNPO』成人！！
- C はいはい。だからって、キャラデザ変更とかはしませんよ。
- D ってゆーか、設立時には、まだ、『さばえNPO』いなかった。(笑)
- D 5年前の15周年で盛大にお祝いしたし、予算も厳しいので、サポートの“成人式”は会員の心のなかでひっそりと…ってことで。
- C まあ、『LINEスタンプ』も、20周年記念ってことでリリースしたんだけどね。
- A はい。そうでした。
- G 確かに、市民活動やNPOの環境に山積する課題の数々やら、認定NPOとして継続的に活動していくことを考えたら「成人だー！」とかお祝いする話でもないのかな絶えず、一生懸命「今を生きる」的な感じですか？
- D だね。
- A 市民活動って、特別なことじゃなくって、本来はみんなの『生活』と一体になってるものはずだから、地道に続けていくって視点も大事だと思う。
- A 広報と同じで、インパクトだけ追い求めてると、結局、説得力のない『うすっぺら』なモノになっちゃう



広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作ませんか？
人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。
待ってまーす！

【ご連絡先】
■さばえNPOサポート事務局
TEL: 0778 (54) 7055
Eメール: info@sabae-npo.org



- C やうよ…ってことですかね。おぉー。
- C なんか、美しくまとまりました！
- C 全員 パチパチパチパチ！
- C 編集も最終段階に入った2020年3月、世界は『新型コロナウイルス』に翻弄されています。
- C 座談会のしめくりで話していた、「一生懸命『今を生きる』」という言葉が、全く違った意味合いで私たちに響いてくることなるうとは：
- C ただ、ウイルスや感染症をはじめ、その影響を受ける育児、教育、労働、

- C 福祉など、様々なジャンルの報道の中にも、NPO関係者の皆さんがたびたび登場し発信しているのを目にする度に「NPOの存在意義が、本当に社会から認められ、ある意味必要ともされているんだ」ということを再認識しました。
- C 我々さばえNPOサポートも、微力ながら、市民の皆さんと共に地域のために力を尽くしたいと思えます。
- C “こんなご時世”だからこそ、『お互いを尊重しながらコミュニケーション全体の問題解決方法を考える』という視点を大切にしたいものですね。では、また次号で！

☆禁断の…

- A じゃあ、栄えある第1位は？
- A やっぱ、さばえNPOサポート
- A 設立20周年ですか！



『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。「ぜひ、私たちのことも取材して！」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報下さい。



『OSANPO～8歩目～』
 ●2020年3月 初版発行
 ●発行人：広報委員会
 ●発行所：認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
 福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
 TEL:0778-54-7055
 FAX:0778-54-7058
 E-mail: info@sabae-npo.org
 ●http://sabae-npo.org/

